

会 議 概 要

会議の名称	令和5年度弘前市学校給食審議会第1回会議
開催年月日	令和5年8月30日（水）
開始・終了時刻	13時00分 から 14時00分 まで
開催場所	岩木庁舎2階多目的ホール
出席者 （19名）	<p>・審議会委員9名</p> <p><u>今由香理委員（会長）</u>      木村憲夫委員      福島龍之委員          佐々木克典委員      鈴木勝久委員      櫛引直子委員          小野みか子委員      野呂悦子委員      立石桃々委員</p> <p>・事務局10名      教育部長      ほか</p>
欠席者 （5名）	<p>・審議会委員5名</p> <p>山口安祈子委員、安田祐一委員、西村秀太郎委員、  <u>中島里美委員（副会長）</u>、瓜田正勝委員</p>
会議概要	<p>1 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育長挨拶</li> <li>・出席委員紹介</li> <li>・会長及び副会長の選任 委員の互選により、会長に弘前地区小学校長会推薦の今委員、副会長に柴田学園大学短期大学部推薦の中島委員を選出</li> <li>・会長挨拶</li> </ul> <p>2 報告</p> <p><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">（1）弘前市の学校給食実施状況について</span></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意見なし</li> </ul> <p><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">（2）学校給食における弘前市の取り組みについて</span></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主な意見 （委員） 県産食材の説明の所であった、パンについてだが、パンも給食センターで手作りしているのか。</li> <li>（事務局） パンについては、工藤パンで作られたものを提供している。</li> <li>（会長） パンは小麦粉の時もあれば、米粉のパンが出る時があり、子ども達がとても楽しみにしている。米粉のパンはもちもちしていて食感がいつもと違うなど、同じパンでも歯ざわりが違ったりすると子ども達</li> </ul>

にとっては興味深いものとなっている。

### 3 その他

#### ・主な意見

(委員)

食に関する指導で、栄養教諭・学校栄養職員・栄養士が学校へ訪問しているとのことだが、それは給食センターの職員なのか。

(事務局)

東西学校給食センターにいる職員である。

(委員)

資料(1)の3ページの給食センターの職員構成のどれにあたるのか。

(事務局)

「栄養士」のところである。

(委員)

ということは弘前市では、その指導を令和4年であれば、全38校291時間を6人で分担しているのか。

(事務局)

年間約300時間指導しているので、一人50～60時間担当している。

(委員)

食の指導の指導内容は、栄養士個人がすべてコンテンツを作ってやっているのか。それともベースや教材があってそれをもとにしているのか。

(事務局)

東西給食センターの栄養士が集まり、各学年の指導案を検討し、同じものを使い、行っている。終わるとその指導案を振り返り、次年度に向けての検討を行っている。

(委員)

その指導案はどこかからの監修などはあるのか。

(事務局)

平成23年頃から継続しており、文部科学省が出している食に関する指導の手引きなどの内容に沿い、この学年にはこれをやったらどうかと協議している。

(委員)

青森県で特に問題となっている生活習慣病は、よく咀嚼して食べることや、規則正しく食べる習慣、塩分を控えた食生活など、子どもの頃から指導しておかないとやはり改善しないと思われる。健康都市弘前の計画で小さい頃から生活習慣病の予防を強調しているが、青森県オリジナルのそういった取り組みが必要だと考える。

(会長)

食育が子ども達の体を作り、それが生活習慣病の予防にも繋がっていく。小学校の現場では小学校3年生に「おやつをじょうずにとうろ。」という学習をしている。授業の前は、コーラやファンタなど炭酸飲料や甘味料を子ども達が好んで摂取していたが、授業の中で、おやつ他にジュースの糖分について扱ってくれたので、授業を通して意識が変化したのか、次の日から少しジュースを控えたという意見が見られたりした。やはり継続的に取り組んで行くことが必要だと感じた。

(委員)

中学校でも、生活習慣病の予防や、全国的な塩分の摂取量と青森県における摂取量の比較など身近なデータを取り上げて考えさせるのはとても良い授業だと思った。

(会長)

栄養士ひとりひとりがすごい量の授業をこなしているのがよくわかった。子ども達がこれからの生活習慣病の予防を考える良い機会となっているので、今後とも頑張ってもらいたいと思う。

(委員)

栄養士の活動はたいへんだと思うが、子どもに対する教育だけでなく、基本である家庭の親世代に対する教育の場を設けてはどうかと思う。

(会長)

健康増進課とタイアップして、各学校でPTAが保護者を集めて健康

について話したりする取り組みもあるようだ。これからも家庭と学校、そして市と協力してやっていきたいと思う。

・今日の会議の意見、感想など

(委員)

子供の頃からの食生活の習慣が大事だと考えるが、青森県の場合は大変な課題がたくさんあるので、今日は給食センターの話聞いて大変苦労があると思ったが、これからもよろしく願いしたい。

(委員)

学校薬剤師は細菌検査で学校給食に関わっているが、弘前市はかなり良い成績なので、とても清掃等にも気を配っていると思う。食育の分野も非常に努力している。これからもよろしく願いしたい。

(委員)

給食のメニューは同じなのか。小学校と中学校で違いはあるのか。

(事務局)

基本的に同じだが、小学校と中学校では量が違う。また、中学校は必要なカルシウムやエネルギーが小学校よりも多くなるので、プラスアルファすることはある。

(委員)

私が給食を食べていた頃は、鼻をつまんで飲む脱脂粉乳の時代で、決して美味しいとは言えなかった。今日話を聞いて、アレルギー対応食の素晴らしさに驚き、感心したので、今後も頑張っ続けてほしい。

(委員)

家庭の味に慣れて忘れていたが、給食はとても健康的な味。給食の薄い味を家庭に伝えていき、長期的に見て家族共に健康になれば良いと思った。栄養士が6人で食の指導を担当していて、多忙な仕事だと思った。小学校時代に自分も授業を受け、実際にコーラのペットボトルに入っている角砂糖の量を見せられ、すごいと思った。小学校時代に教えられたことは小さいながらも自分で考えることに繋がり、今後に影響していくと思うので頑張っしてほしい。

(委員)

小さい頃からの教育が重要だと改めて思った。いま弘前で取り組まれているコアカリキュラムには、どういう風に食べ物を食べればよい

か、健康が大事だとかあるが、学年が限られているので、もっと幅を広げてやるとかコラボなどすべき。自分もやはりペットボトルに入っている砂糖の量を見せられたら飲めなくなった。学年関係なく、そういったことを見せて示せば、長いスパンで見えていくと、健康教育に繋がると思った。また、給食は食べていると味が薄いと思うこともあるが、卒業して振り返るとやはり美味しかったと思うので、今後も自信をもっておいしい給食を作ってもらいたい。

(委員)

毎日子ども達と一緒に給食を食べているが、子ども達は給食を本当に嬉しそうに食べている。とても早食いで、美味しいから早く食べてしまうという子どもがいる。よく噛まないなど良くない食べ方をしているなど感じることもあり、根気強く指導していく必要があると思う。子ども達は、給食を毎日楽しみにしているので、これからもよろしくお願ひしたい。

(委員)

食に関する指導を、小・中学校に来てやってもらっているが、新規の教材を利用し、一人一台端末を活用した授業をこれからも期待している。実際の授業は、子ども達が興味を持つような工夫がされ、給食のメニューに関する情報や郷土料理についての情報なども、学校では放送委員会などで活用され、色々発信できているので助かっている。これからもきめ細やかな情報提供をしてもらえれば、子ども達を通してまた家庭にも届いていくのではないか。これからも給食について、食に関する指導について、新しいことにチャレンジをして、親世代にも働きかけるような取り組みを続けてほしい。

4 閉会